

インド ナガランド州アオリング祭り撮影ワークショップ

おすすめポイント

- ①現地集合＆解散型の撮影ワークショップ
- ②希少な少数民族の例祭に合わせたスケジュール
- ③プロ写真家による撮影指導(初心者歓迎)
- ④インド僻地での撮影(到着後、入域許可証取得無料サービス付き)
- ⑤復路では経由地コルカタでのワークショップ開催(有料 希望者のみ)
- ⑥少人数限定 (日本人参加者最大8名)
- ⑦総額38,000THB(約1,100USD) 移動費、宿泊費、食費、撮影指導料込
シングルユースの場合は総額 44,500THB (USD1300)



こんな方におすすめ!

通常のツアーでは殆ど催行されない、僻地での希少な撮影を経験したい!
プロ写真家による現地指導で、自分の撮影スキルを向上させたい!

2023年4月3日発 7泊8日

Dibrugarh Airport IN

Dimapur Airport OUT

★このワークショップは、インド各地で撮影専門のツアーを開催しているSIA Photography社とのコラボとなります。主催者のサウラディ氏は、ムンバイを拠点に活動する著名な写真家です。彼は、これまで6,000人以上の写真家を指導し、100以上ものワークショップを開催してきました。それらの作品は、ポートレートに限らず、風景、天体、動物写真と多岐に及び、優れた技術を持った有能な写真家としてインド内外で知られています。

今回のワークショップでは、【旅写真家持田あきら】がサウラディ氏と共に日本人参加者の撮影指導を行います。復路のコルカタでは、持田あきらによるワークショップを開催します。(別料金)
一般の観光コースでは訪れる事の無い、隠れた撮影ポイントへのご案内と、撮影指導も併せて行います。



【作例】撮影 サウラディ氏

秘境ナガランドとは?

インド北東部の山岳地帯に位置し、ミャンマーと国境を接する辺境地。文化的には東南アジアに属し、ナガ族をはじめとする少数民族により独自の文化を育んできた。第二次世界大戦では、インパール作戦の激戦地ともなった。元々、この一帯は英国植民地下にはおかれず、そのため戦後は独立を宣言するも叶わずに後にインドに併合され現在に至る。近年まで部族間同士の争いが行われ、戦闘では相手の頭部を切断して飾る「首狩り」の風習が1985年まで続いていた。



アオリング祭とは？

最大部族であるコニャク族により毎年4月の第一週に6日間にわたり催される収穫祭です。祭りは前半と後半の各3日間に分けられます。前半の3日間は例祭の準備として、女性達は伝統衣装に身を包み、家畜が生贄として奉納される儀式が行われます。後半の初日(4日目)は最も重要な日となります。この日は、民族衣装に正装したコニャク族による様々な儀式や踊りが奉納されます。残りの2日間は、各家庭で祝うためワークショップでは前半の4日間に焦点を絞って撮影を行います。世界中の僻地には多くの少数民族がいますが、現在でも独自の文化と習慣を守り、原始的な生活に触れる事ができる場所は非常に限られています。これらの場所では、観光化と共に例祭は形骸化していきませんが、此処では近年まで入域自体が厳しく制限されてきた為、オリジナルに最もちかい形で彼らの文化に触れる事のできる世界でも非常に貴重な例祭といえます。

ナガランドの治安

元々ナガランドでは英国植民地政策が及ばず、インドへの帰属意識が薄い事から近年まで独立運動が盛んな地域でした。インド政府による併合後も独立運動は長く続き、インド政府による少数民族への弾圧による犠牲者は20-30万人以上と言われています。

その為インド政府は、この一帯を紛争地域として長い間立入制限を行っていましたが、1997年に武装勢力と中央政府による停戦が成立。その後部族の武装解除と共に治安が回復し、立入制限は大幅に緩和されました。現在では完全に治安が回復し、観光化されたとはいえ、少数部族達の生々しい文化が損なわれずに残る原始的な姿を写真に収めようと、欧米を中心に多くの写真家が訪れるようになりました。

ナガランドの行き方

起点となるDibrugarhと解散地であるDimapurまではIndiGo Airがコルカタとデリーから毎日数便が就航しています。所要時間は何れの空港も、コルカタから約1時間40分 デリーからは2時間40分 料金は80-120USD前後(購入時期や便名により価格は異なる)と、必ず何れかの都市を中継する必要があります。

国際線からの乗継の場合、経由地ではインドの入国審査及び国内線ターミナルへの移動を勘案し、最低3.5時間以上の乗継時間が必要となります。(到着VISAでの入国の際には、更に1-2時間程度の余裕を持って下さい)

ナガランドの季節と気温

標高1500m前後の丘陵地帯に位置するため4月の最高気温は20度前後と涼しく、夜間は10度前後まで冷え込みます。その為、ウインドブレーカー等防寒着が1枚あると良いでしょう。

例年4月の平均は晴天が90% 雨天は2-3日程度と一日中雨が降る事は滅多にありません。

ホテル事情等

僻地の為、設備の整った高級ホテルは都市部を除くと殆ど無く、中級程度のホテルもしくはゲストハウスの利用となります。近年の観光化に伴い、ホテルの質は年々改善されてきています。但し、リゾート地では無いので、ホテルに対しての過度な期待はできません。

食事情

ナガランドでは、発酵食品や唐辛子を用いた伝統的な独自の食文化が残っています。現地ではこれらの食事以外にも、インド料理やビルマ料理も一般的です。

日程表

(以下の日程は、現地の都合で細部が一部変更になる場合があります)

日時	移動イベント等
4月3日(月)	インディゴ (IndiGo) 6E6214(08:45 10:25)でコルカタから Dibrugarhディブルガル空港(もしくは市内)ピックアップ後モンに向けて移動
4月4日(火)	
4月5日(水)	ロングワ、ワクチン等の村々で例祭の撮影
4月6日(木)	
4月7日(金)	モクチョン村で少数民族の撮影
4月8日(土)	ツオフエマ村で少数民族の撮影
4月9日(日)	コヒマ村で少数民族の撮影
4月10日(月)	Dimapur空港で解散 国内線で各地へ移動
4月11日(火)	インディゴ (IndiGo)6E958 (12:05 13:20)でDimapurからコルカタへ
4月12日(水)	コルカタ市内で撮影ワークショップ
4月13日(木)	自由行動(ショッピング & インド博物館等)

乗継地スペシャルオプション

コルカタ 撮影ワークショップ

ナガランドの経由地となるインドのコルカタでワークショップを2日間開催します。(別料金)

コルカタはインド植民地時代の首都で、国内3位の人口を抱えた世界屈指のメガシティです。

植民地時代の建物が今も残り、混沌と雑踏が混在するインドを凝縮したような町を歩きながら撮影します。

コルカタではインドの国産車アンバサダー社のイエローキャブ、人力車を引く車夫等々、他のインドの町では見れない独特な世界が広がります。

ワークショップでは、これらの典型的な被写体を捉えながら、更にDeepなポイントへとご案内致します。



【作例】 撮影 持田あきら

右上/リキシャ夫 右下/ガートでの祈禱 中上/アンバサダーキャブ 中下/人形師の集落 左/フラワーマーケット

コルカタ在住の写真家マンジット氏とのコラボ

コルカタでは、コルカタ在住の写真家マンジット氏によるガイドと撮影指導を予定しています。

マンジット氏はBBCの「コルカタの華僑」という番組の制作に携わりました。コルカタの歴史に非常に詳しく、歴史家の視点でガイドブックに無いディープなコルカタを紹介してくれます。

勿論、写真家としても非常に有能であり、国内外で多くの賞を受賞しておりインドを代表する写真家の一人です。

マンジット氏のワークショップは12日に催行します。

料金 200ドル(11-12日 2日間 ナガランド参加者特別価格)

コルカタのワークショップのみでご参加の場合は250ドルとなります。

※料金はワークショップのみの金額となります。

コルカタ市内のホテル代、市内までの送迎、食費は別途現地にて実費をお支払い下さい。

尚、ワークショップ中の移動費は代金に含まれます。

ご自分でホテルをお手配された方は、当日朝に指定時刻まで市内の指定された場所にお越し下さい。

当方で手配するホテルは現在未定ですが、3つ星クラスを予定しています。(サダルst、パークst 周辺を予定)

バンコクからコルカタ経由ナガランドへ

バンコクからコルカタへの直行便は1日4便(2時間半)就航しています。

何れも深夜に出発しますが、インディゴ (IndiGo)航空の場合はコルカタ空港で5時間の乗継でDibrugarh行き 6E6214(08:45 10:25)に接続します。

往路	航空会社	フライト	バンコク発	コルカタ着	乗継	コルカタ発	ディブルガル着
	IndiGo	6E6214	2:20	3:45		乗継	8:45
スパイスジェット	SG743	2:05	3:05				
タイ国際航空	TG313	23:45	0:45+1				
Air ASIA	FD120	22:55	0:00+1	(IndiGo) 6E6214			

往路	ディマプール発	コルカタ着	乗継	航空会社	フライト	コルカタ発	バンコク着
	12:05	13:20		IndiGo	6E1057	21:30	1:40+1
				スパイスジェット	SG742	21:20	1:05+1
				タイ国際航空	TG314	2:00	6:10
(IndiGo)6E958		Air ASIA	FD121	0:30	4:30		

※AIR ASIAはドムアン空港発 チェックインバゲージは別途追加料金

※IndiGoは国際線20kgまで無料 国内線は15kgまで無料

※上のフライトスケジュールは2/1 現在のものとなります。予約時には必ず最新の情報をご確認下さい。

タイからはLCCのIndiGoがお薦め！

機内サービスやマイルージ、荷物の重量制限等、値段を気にしなければタイ国際航空が一番快適ですが、タイからインド行のタイ航空ではインドVISAの確認が非常に厳格です。(日本発はそれほど厳格ではない)

実際に、些細な事で搭乗拒否にあう人が頻発しています。(僕はインド行きタイ航空で2回搭乗拒否に遭遇。理由はVISAが承認された書類をプリントアウトするも、メールがスマホに無い。知り合いは逆にスマホに保存してもプリントアウトしてないからとの理由)最終的には搭乗できましたが、バンコク発インド行きタイ航空はリスクが非常に高いので、予めビザのある人と、到着ビザ以外は避けた方が無難です。

逆に、他の航空会社は比較的寛容です。タイ航空のように厳格に確認せずに発券してくれます。

又、インドのLCCのIndiGoは遅延が殆ど無く、世界4位の定時発着率を誇っています。国内線から国際線へのバゲージスルーや20kgまでのアロワンス等非常に便利。深夜の機内サービスを期待しなければ全く問題ないと思いま

日本からコルカタ経由ナガランドへ

日本からコルカタへの直行便は無いので、バンコクやデリーで乗継となります。

フライトは多々ありますが、時間帯等勘案するとタイ国際航空が最も便利だと思います。

往路	航空会社	フライト	成田発	バンコク着	乗継	コルカタ発	ディブルガル着
	タイ国際航空	TG677	17:25	21:55		8:45	10:25
		フライト	バンコク発	コルカタ着			
	TG313	23:45	0:45+1	(IndiGo) 6E6214			

往路	ディマプール発	コルカタ着	乗継	航空会社	フライト	コルカタ発	バンコク着
	12:05	13:20		タイ国際航空	TG314	2:00	6:10
				フライト	バンコク発	成田着	
(IndiGo)6E958		TG676	7:35	15:45			

※上のフライトスケジュールは2/1 現在のものとなります。予約時には必ず最新の情報をご確認下さい。

インドビザの取得

インド入国にはVISAが必要です。VISA インドビザの取得方法には3通りあり、日本(タイ)出発前にインド大使館/領事館で直接申請する方法(レギュラービザ)やオンラインで申請する方法(インドe-VISA)、そして、インド到着後に申請する方法(インドアライバルビザ)などがあります。

結論から言えば、e-VISAがネットで完結でき且つ26ドルと安価、おまけに5年マルチと最強ですが、記載事項や条件が多く大変です。相当難儀ですが、パソコンとクレカがあればOK。全てクリアすると申請受領のメールが届きま e-VISA申請の詳細については、Web上やYouTubeでも日本語で諸々紹介されています。これらを参考にすると比較的簡単にe-VISAを取得する事ができます。

→申請はこちらから <https://indianvisaonline.gov.in/>

到着VISA

インドには事前にビザが無くても日本人は到着時にBOAビザ(Visa on arrival)が取得できます。

僕はこれまでムンバイ、デリー、コルカタの3つの空港から到着ビザで入国した事があります。

デリー、ムンバイの空港では簡単に取得する事ができましたが、コルカタ空港は少し手間取りました。

(申請料が現地通貨2,000IDRのみ。入国前の空港内にATMが無く、一旦仮入国をする手続きが必要だった)

但し、通常は他の空港同様に、ドルの現金、又はクレカで支払う事もできるみたいですが、BOA対象国の利用者の少ないコルカタでは担当者の不慣れや、クレカリーダー機器の不具合等が重なると少し手間取るかもしれません。

とはいえ、日本の旅券所持者が現地で入国を拒否されるケースは無く(残留期間や過去のオーバーステイ等、旅券に不備が無い事が条件)、係官の指示通りに従えば特に問題は無く入国できる筈です。

その他の必要事項

新型コロナウイルスcovit19の感染状況により、各国の入国規制は流動的です。インドでも昨年10月に入国規制は全面的に解除されましたが、中国正月に合わせて再度規制が始まりました。2/1現在では、通常の渡航VISAに加え、渡航72hrs以内のPCR証明書、Air Suvudha(自己申請書登録)が必要です。これらの規制も一時的との見方がありますが、渡航に関しては流動的なので常に最新の情報に注視下さい。

[在インド日本国大使館\(emb-japan.go.jp\)](http://emb-japan.go.jp)

ワークショップの責任範囲

今回僕が主催する撮影ツアーはワークショップという形態をとっています。これは、現地発着型の撮影指導を前提としており、海外では多くの写真家が同様のツアーを催行しています。そのため、現地までの移動方法、ビザ手配は全て参加者各個人の責任に於いて対応して頂きます。航空機のキャンセル等により、当日までに現地に入れない場合は、他の参加者のツアー催行を優先するため状況によってはワークショップへの参加をお断りする事もあります。

その為、フライトに於いては無理のないスケジュールでお手配願います。

催行中は参加者の安全を第一に対応致しますが、不慮の事故や病気に備えて必ず各自の責任に於いて旅行傷害保険にご加入下さい。

参加者の方に病気や怪我、政変や天候等による大きな問題が発生した場合、状況に応じて対応を致しますが、その際ツアーの一部もしくは全てを途中で中断する事もあります。途中で未催行もしくは大幅な変更が生じた場合は、都度誠意をもって対応致しますが、場合によっては返金に応じられない場合もありますので、予めご了承願います。

不明点等は、別途お問合せ下さい。

line ID [kurohei0725](https://line.me/tv/p/kurohei0725)

Mail_mochidakurohei@gmail.com

その他 QandA

1.写真愛好家ではありませんが参加できますか？

→勿論OKです。写真愛好家でなくとも貴重な機会なので十分に楽しむ事ができると思います。

2.今回のワークショップにお勧めの機材はありますか？

→基本的にはフルサイズ換算で24-120mmの焦点距離があれば殆どの撮影に有効です。逆に200mm以上のレンズは重くて使用頻度は少ないのでお勧めしません。特にこだわりが無ければストロボ機材や三脚も必要ありません。

3.現地でメモリーカードを購入できますか？

→基本的にはできません。コルカタ市内では購入ができますが、店舗は限られており特にSQDカードは入手が難しいので十分な容量のカードを持参して下さい。

4.事前に準備もしくは練習しておく事はありますか？

→カメラとレンズ以外には、予備電池、充電器、プラグ、ブロアー、スプレー等のクリーナーキットがあると便利です。センサー幕の無いカメラの場合、レンズ交換時に埃が付着するのでブロワーは必須です。

又、初心者の中にはカメラの基本設定ができない方を時々みかけます。連写機能やフォーカス範囲、AF-CとAF-Sの切換、露出補正等基本的な設定ができるように事前に練習しておく事をお勧めします。

オート又はプログラムでも撮影は可能ですが、重要な設定をコンピューターに任せると、自分のイメージした写真を撮る事はできません。

予め、メーカーのWebからカメラの取説をスマホにダウンロードしておく事も有効です。

5.その他機材関連で注意する点は？

→バッテリーや機材は必ずハンドキャリーにして下さい。

インドの航空機はセキュリティーが厳重です。預け荷物の中にパワーバンクやバッテリー、ライターがあると目的地まで荷物は輸送されず、一時的にロストバゲージとなります。

一度ロストすると、ツアー中に荷物を確保する事は難しく撮影そのものができなくなります。

その為、機材に関してはできるだけチェックインバゲージとし、予想外のロストバゲージに備えて下さい。

6.海外旅行初心者で英語も殆ど話せませんが、大丈夫でしょうか？

→現地発着型のワークショップなので、正直に言えばハードルは少し高いと思います。

然しながら、早めに空港に到着し、案内板を何度も確認する等、余裕をもったスケジュールで行動すれば特に問題は無い筈です。

英語に関していえば、流暢に話す必要は無く最低限の英単語のみでOKです。現地では僕が随行しますので、ツアー中に於ける言葉の問題は殆ど無用です。

7.現地でのネット及びSIM事情は？

4GのSIMカードが市内で販売されていますので購入可能です。その場でActivateできますが、日本国内の一部のスマホは予めSIM FREEに設定する必要があります。詳細は、契約しているキャリアにお尋ね下さい。宿泊先のホテルの殆どにはWiFiがありますが、ナガランドは僻地のため通信速度にはムラがあります。場所によっては、4Gエリア外になるので、ナガランド滞在中の通信状況は良好とはいえません。コルカタ市内では概ね問題ありませんが、空港内に4G販売店は無いので市内での購入になります。

8.現地での両替

→現地の通貨(インドルピー)は空港内で両替可能です。市内の方が若干レートは良いです。円からルピーよりもドル(100ドル札)の方がレートは良いと思います。両替の際は、必ず目の前で枚数を確認し、穴の開いた札や、ペンの跡やスタンプがあると使えません。意図的に瑕疵のある札を混ぜる事もよくあるので、注意が必要です。尚、一部の高級ホテルを除くと、クレジットカードが使える場所は限定的です。(VISAのステッカーがあっても、実際にはインド国内で発効したカードに限定される事が多い)少し面倒ですが、コルカタ市内であれば両替商は多くあるので、ドル現金があれば特に不自由はありません。ATMもありますが、国際カードに対応していないのがあります。

9.現地での衛生環境が心配です。

→インドに於ける衛生概念は日本とは大きく異なります。日本国内の感覚からすれば厳しいかもしれませんが、この数十年でインドの衛生概念は急速に改善されています。ツアー中の食事でもできるだけ衛生には配慮しますが、急激な環境の変化からお腹を壊す事もあるかと思えます。欧州先進国を巡る訳では無いので、多少のリスクは伴っている旨はご理解下さい。

お腹が緩くなる事はあっても、食中毒になる可能性は低いでしょう。(僕自身これまで10回のインド旅でお腹を壊したのは1度のみ)暴飲暴食を避け十分な水分補給と睡眠をとる事で免疫力を向上させ、健康を保つようにしましょう。



インド名物のラッシー

インドの旅ではラッシー屋台から朝がはじまる。

ラッシーの味はそれぞれで奥深い。整腸作用があるのか、お陰で長い旅でもお腹を壊す事は無かった。

10.その他、持参した方が良いもの等

プラグ

インドで使われている電源プラグはB3・BF・B・Cの4タイプです。日本ではAタイプしか使われていませんのでインドに行くのなら変換器は必須です

<https://asitatsu.com/base/plug/>

ペープマット

夜就寝時に蚊がいると睡眠不足になります。スプレータイプのものや、ペープのような加熱式等があると便利です。

その他、乾燥味噌汁や、カップ麺等日本食が恋しくなる人は持参するとよいかもしれません。

因みに僕は、撮影させて頂いた方へのお礼として、穴の開いた5円玉や煙草、子供用にキャンディーとかお菓子等持って行く事もあります。